

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 城陽福祉会	代表者	石田 實	法人・ 事業所 の特徴	平成27年5月に開設。母体の法人は介護サービス全般を運営。事業所は閑静な住宅街に建ち、ダイルームから広がる広い庭へ利用者が自由に入出りできる。浴槽はヒバ、浴室はヒノキと十和田石を使用し温泉気分が味わえる。利用者の「したい」ことの実現に取り組む。
事業所名	小規模多機能 ひだまり鍛冶塚	管理者	北澤 美千代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	(3人)	3人	人		1人	人	8人	人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	初年度のため非該当	初年度のため非該当	自己評価に積極的に取り組んでいる。利用者の情報共有するための取組みを具体的に回数や頻度、内容の充実を達成目標として定め取り組んでほしい。	職員ミーティング・研修 毎月 11日 ケアカンファレンス 毎月第2・4水曜
B. 事業所のしつらえ・環境	同上	同上	外部からは自由に事業所に入ることができ、施設内からは施錠を開錠して出られる工夫がされている。利用空間が広い、見守りに注意してもらいたい。利用者・職員の意見を把握し環境改善に取り組んでほしい。	庭園の開放時間を決め、地域の方との交流をもつ。
C. 事業所と地域のかかわり	同上	同上	地域の行事に積極的に参加されている。今後も地域の行事に参加し地域での知名度を上げ、気軽に相談できる場所として認識を広げるよう取り組んでほしい。	事業所看板の設置。 自治会の賛助会員として行事に積極的に参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	同上	同上	開設当初から地域に出向き、チラシやパンフレットで事業所の活動を広める取組みをされていた。地域の介護拠点として事業に取り組んでほしい。	利用者の行動範囲を把握し、本人と関わりのある地域住民や民生委員、公共・医療・金融機関と連携を継続する。

E. 運営推進会議を活かした取組み	同上	同上	今後「認知症カフェ」の取り組みなども予定され、会議の参加者も含めて地域の方と一緒に活動の幅を拡げてもらいたい。	事業所の看板の設置や自治会賛助会員として参加することで地域での認知度を上げる。利用者の地域の民生委員や家族が参加しやすい時間での開催に取り組む。
F. 事業所の防災・災害対策	同上	同上	事業所の避難場所や備蓄についての状況など事業所の防災計画を運営推進会議に報告されてはどうか。	運営推進会議で避難訓練の実際を見ていただき、避難場所や災害対策に対する意見を消防署も交えて交換し、現状に即した防災計画に繋げる。